

第2章 むつ市の自殺の現状と関連データ

1 自殺の特徴

(1) むつ市の主な特徴

むつ市の主な自殺の特徴をみると、1位は、「男性・60歳以上・無職・同居」となっています。この背景**については、失業（退職）からの生活苦に介護の悩み（疲れ）や身体疾患が加わり自殺に至ると例示されています。2位は「男性・60歳以上・無職・独居」、3位は「男性・40～59歳・有職・同居」となっています。1～3位はいずれも男性が上位を占めています。

図表2-1 むつ市の主な自殺の特徴 特別集計（自殺日・住居地、平成24～28年合計）

上位5区分		自殺者数 5年計	割合	自殺率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位	男性・60歳以上 無職・同居	21	25.9%	84.4	失業（退職）→生活苦+介護の悩み （疲れ）+身体疾患→自殺
2位	男性・60歳以上 無職・独居	10	12.3%	225.6	失業（退職）+死別・離別→うつ状 態→将来生活への悲観→自殺
3位	男性・40～59歳 有職・同居	8	9.9%	29.0	配置転換→過労→職場の人間関係の 悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位	女性・60歳以上 無職・同居	8	9.9%	20.1	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位	男性・40～59歳 無職・同居	6	7.4%	189.8	失業→生活苦→借金+家族間の不和 →うつ状態→自殺

出典：自殺総合対策推進センター（JSSC）（地域自殺実態プロフィール2017）

注：順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順としています。

* 自殺死亡率の母数（人口）は平成27年度国勢調査を基に自殺総合対策推進センターにて推計したものです。

** 背景にある主な自殺の危機経路は「図表1-1」を参考にし、自殺に多くみられる全国的な自殺の危機経路を例示しています。

(2) むつ市の自殺の特性の評価

総数は指標 26.1 となっており、全国順位の上位 20～40% にランクされます。年代別では、20 歳未満、70 歳代が上位 10% 以内にランクされます（※自殺者数 1 人の増減でランクが変わる場合があります）。

図表 2-2 むつ市の自殺の特徴（平成 24 年～平成 28 年合計）

	指標	ランク		指標	ランク
総数 ¹⁾	26.1	★	男性 ¹⁾	38.5	★★
20 歳未満 ¹⁾	5.7	★★★	女性 ¹⁾	14.4	★
20 歳代 ¹⁾	11.3	—	若年者(20～39 歳) ¹⁾	15.6	—
30 歳代 ¹⁾	18.7	—	高齢者(70 歳以上) ¹⁾	49.4	★★★
40 歳代 ¹⁾	30.1	★	勤務・経営 ²⁾	19.1	★
50 歳代 ¹⁾	21.1	—	無職者・失業者 ²⁾	39.0	—
60 歳代 ¹⁾	33.8	★★	ハイリスク地 ³⁾	101%/+1	—
70 歳代 ¹⁾	52.9	★★★	自殺手段 ⁴⁾	32%	—
80 歳以上 ¹⁾	44.3	★★			

出典：自殺総合対策推進センター（JSSC）（地域自殺実態プロファイル 2017）一部改編

- 1) 自殺統計にもとづく自殺率（10 万対）
- 2) 特別集計にもとづく 20～59 歳を対象とした自殺率（10 万対）
- 3) 自殺統計に基づく発見地÷住居地（%）とその差（人）
- 4) 自殺統計もしくは特別集計にもとづく首つり以外の自殺の割合（%）。

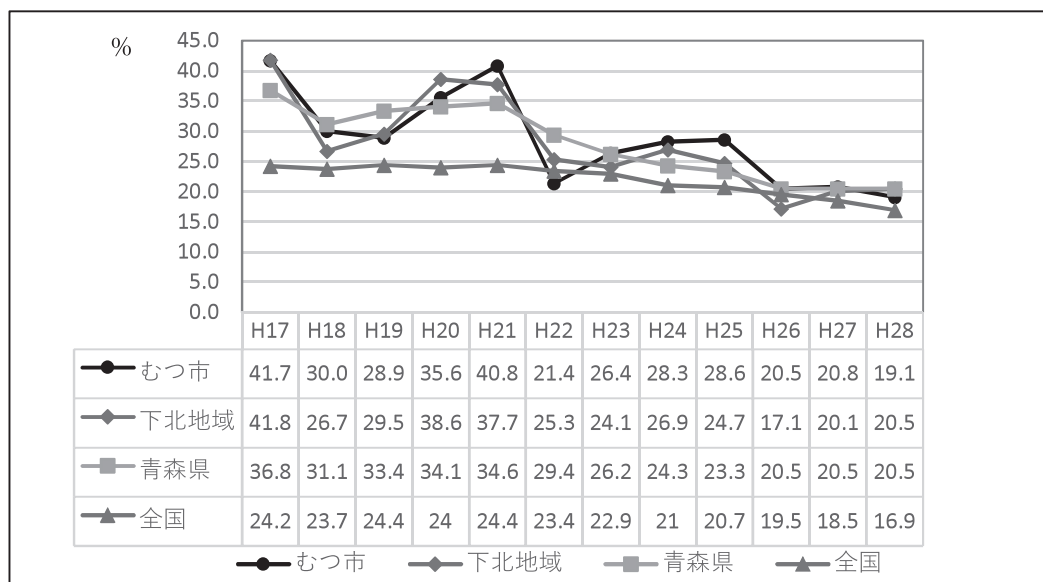
ランクの標章（全国順位）	
★★★	上位 10%以内
★★	上位 10～20%
★	上位 20～40%
—	その他

2 自殺の現状

(1) 自殺死亡率の推移

むつ市の自殺死亡率（人口10万あたりの自殺死亡者数）は、平成25年以降減少しており、青森県と同様の推移ですが、全国と比較すると高い状況にあります。

図表2-3 自殺死亡率

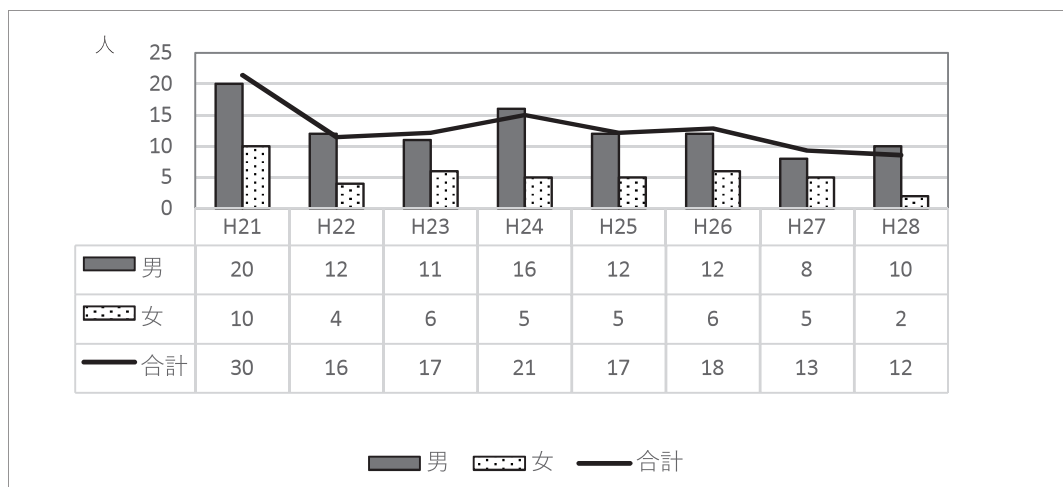


出典：青森県人口動態統計（むつ保健所）

(2) 男女別自殺者数の推移

男女別自殺者数をみると、男性の自殺者が多い現状にあります。

図表2-4 男女別自殺死亡者数

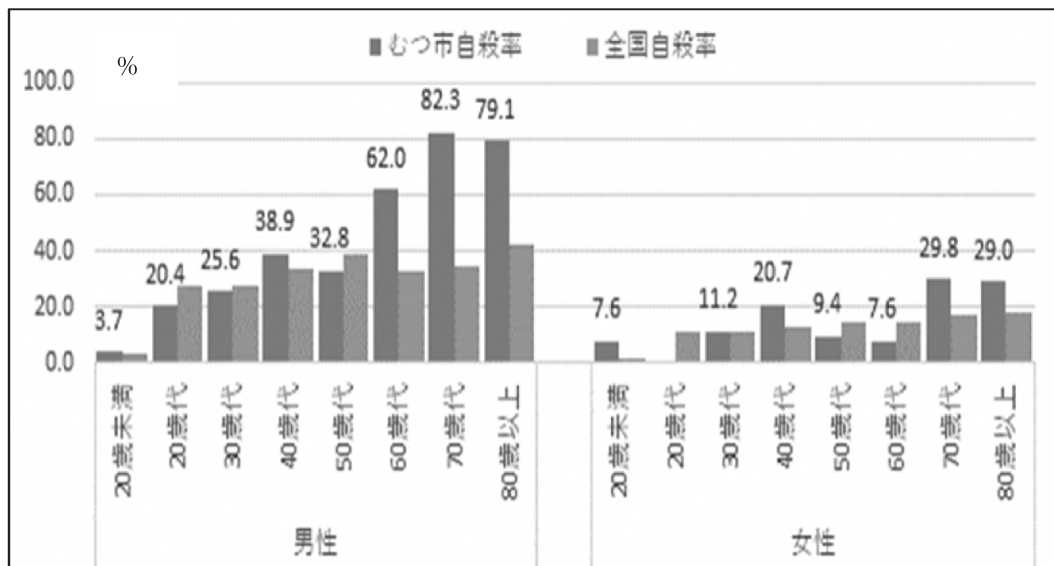


出典：自殺総合対策推進センター（JSSC）（地域自殺実態プロフィール2017）

(3) 性・年代別の自殺率

性・年代別の自殺率をみると、60歳以降の男性の自殺者が多い現状にあります。

図表2-5 性・年代別の自殺率



出典：自殺総合対策推進センター（JSSC）（地域自殺実態プロファイル2017）

(4) 自殺未遂歴の有無

自殺者の16%は未遂歴があり、69%は未遂歴がない結果となっています。

図表2-6 自殺未遂歴の有無別自殺者率（平成24～28年合計）

未遂歴	自殺者数(人)	割合	全国割合
あり	13	16%	20%
なし	56	69%	60%
不詳	12	15%	20%
合計	81	100%	100%

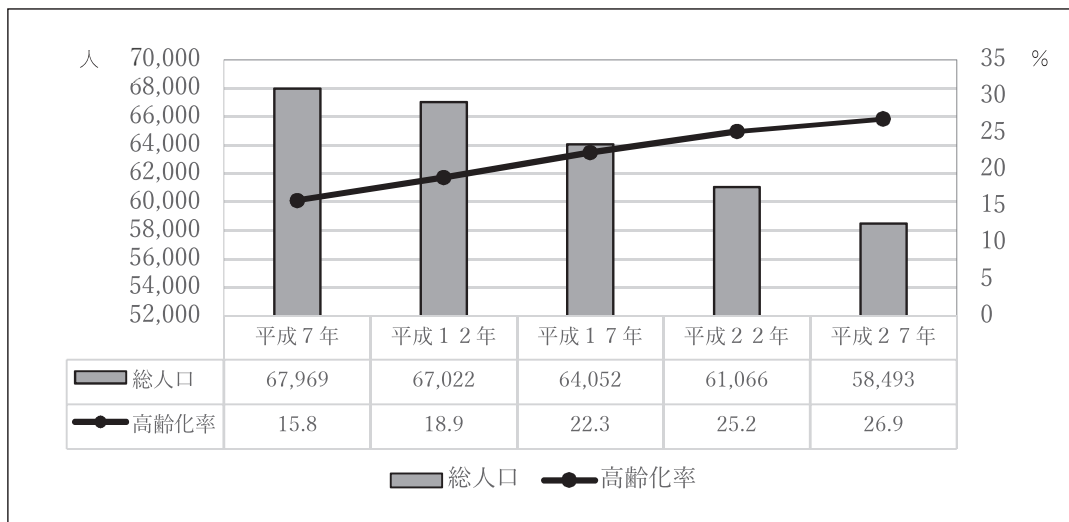
出典：自殺総合対策推進センター（JSSC）（地域自殺実態プロファイル 2017）

3 高齢者の状況

(1) 高齢化率

むつ市の高齢化率は増加傾向にあり、平成22年以降は25%を超えています。

図表2-7 人口・高齢化率の推移

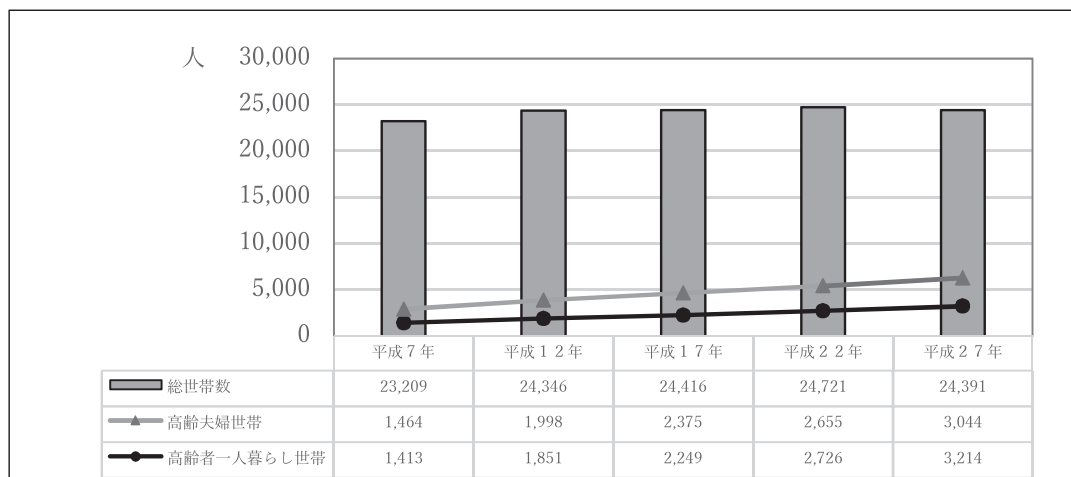


出典：国勢調査

(2) 世帯の状況

総世帯数については、ほぼ横ばいとなっていますが、高齢夫婦世帯数および高齢者一人暮らし世帯数は増加傾向にあり、平成7年から平成27年の間に高齢夫婦世帯数、高齢者一人暮らし世帯数は、ともに増加しています。

図表2-8 世帯の状況



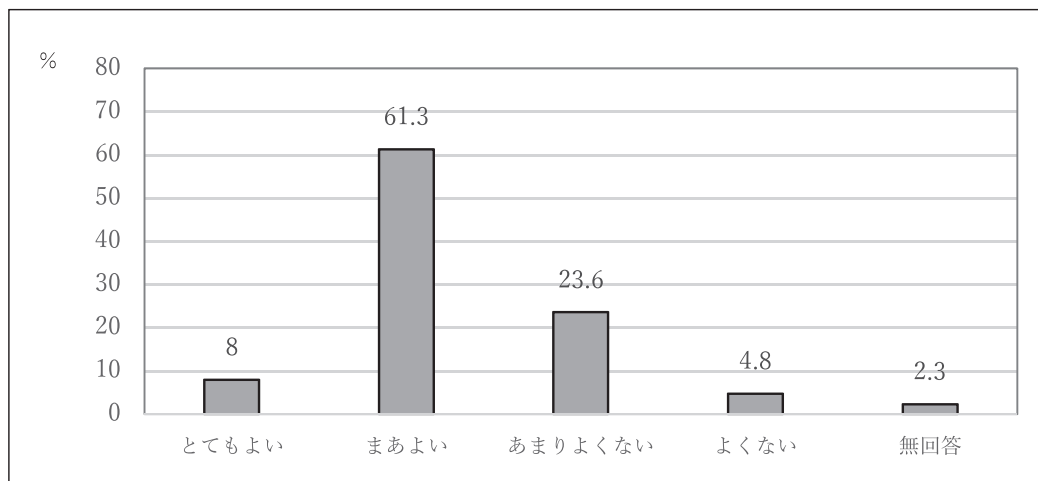
出典：国勢調査

(3) 高齢者を取り巻く調査やニーズ調査の結果

①健康状態について

健康状態については、「まあよい」が一番多く61.3%、次いで「あまりよくない」23.6%となっています。

図表2-9 健康状態について

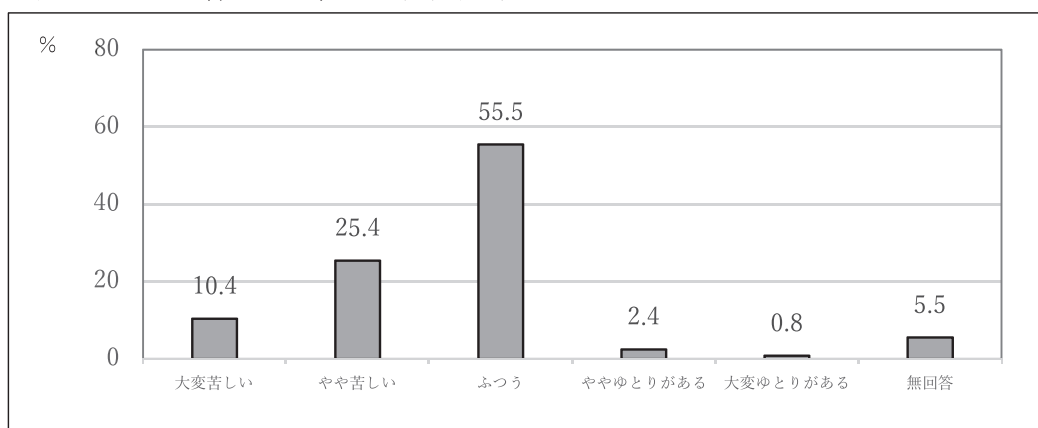


出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査

②経済状況（現在の暮らしの状況）

「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか」についての回答状況は、「ふつう」が55.5%と過半数を占めていますが、その一方で、「やや苦しい」が25.4%、「大変苦しい」が10.4%となっており、35.8%の方が経済的に負担を感じているという結果になっています。

図表2-10 暮らしの状況を、経済的にみてどう感じるか

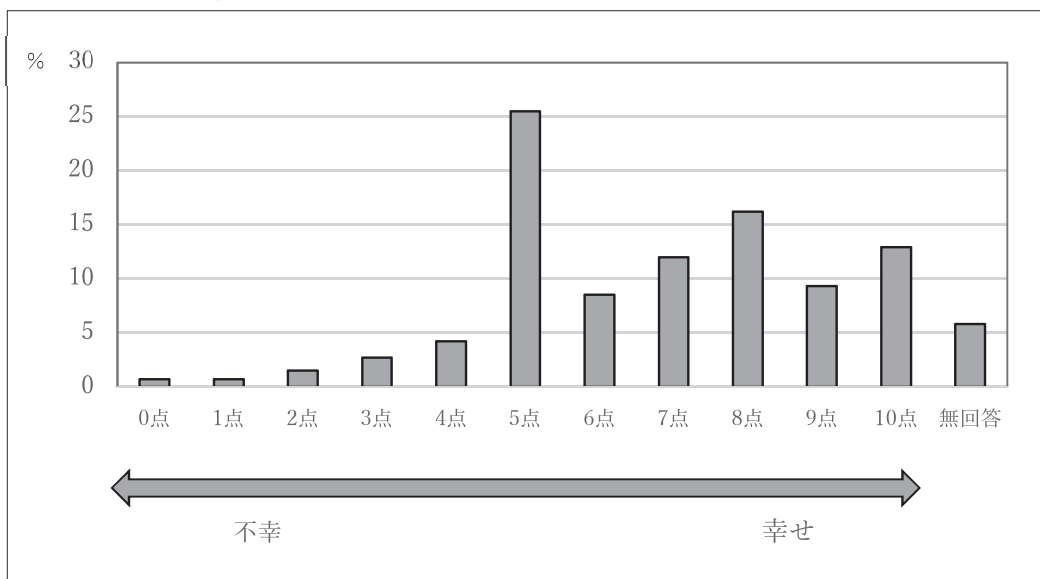


出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査

③幸福度

現在の幸福度についての回答状況は、10点満点中、「5点」が一番多く25.5%、次いで「8点」16.2%、「10点」12.9%の順となっています。

図表2-11 幸福度

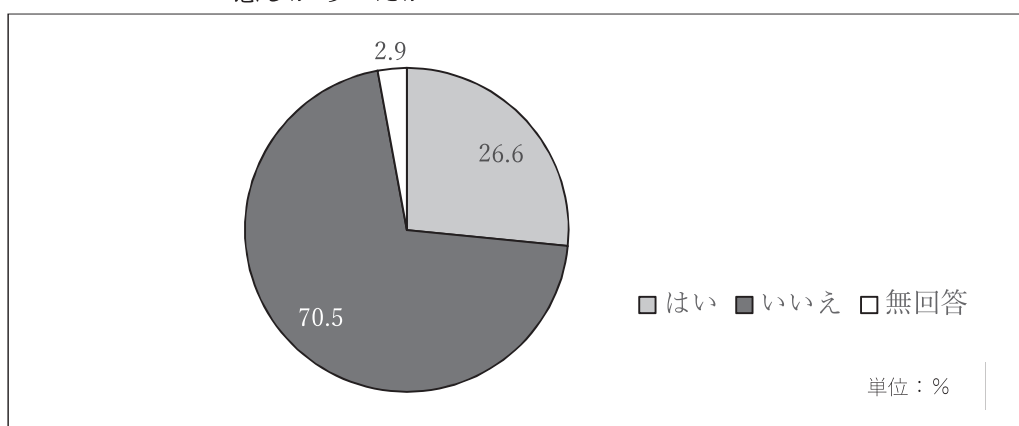


出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査

④興味・楽しみについて

「この一ヶ月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあったか」については、「はい」が26.6%、「いいえ」が70.5%となっています。

図表2-12 どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがあったか

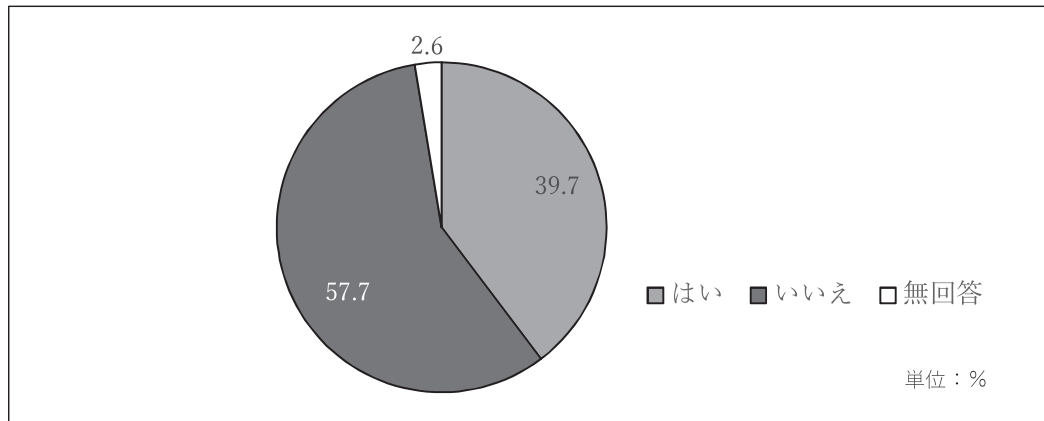


出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査

⑤気分の浮き沈みについて

「この一ヶ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか」については、「はい」が39.7%、「いいえ」が57.7%となっています。

図表2-13 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

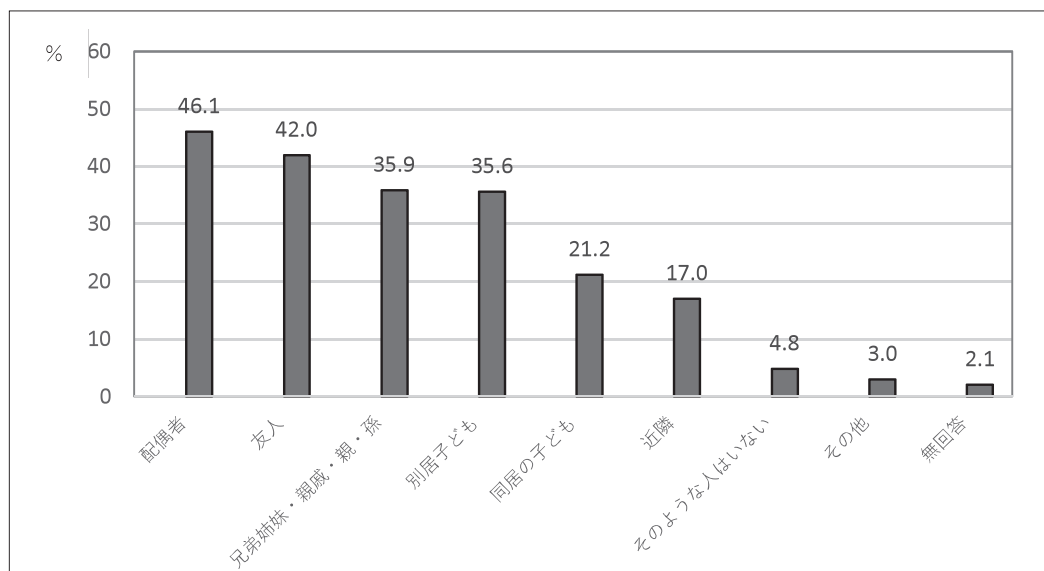


出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査集計

⑥相談できる人について

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が46.1%と一番多く、次いで「友人」42.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」35.9%、「別居子ども」35.6%の順となっています。また、4.8%が「そのような人はいない」と回答しています。

図表2-14 心配事や愚痴を聞いてくれる人



出典：むつ市日常生活圏域ニーズ調査集計報告書

* むつ市日常生活圏域ニーズ調査

「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、むつ市内に住んでいる65歳以上（平成29年1月1日現在）で要介護認定を受けていない方または要支援1、2の認定者を対象に、平成29年2月に実施した調査です。

4 生活困窮に関連するデータ

(1) 生活保護相談件数

生活保護の相談件数は、平成24年から28年度の合計は1,650件、平成29年度は229件という状況です。

図表2-15 生活保護相談件数

年 度	相談件数(件)
平成24～28年度	1,650
平成29年度	229

出典：むつ市生活福祉課集計

(2) 生活保護受給状況

生活保護受給世帯数は年々微増していますが、人員はほぼ横ばいの状況となっています。世帯別内訳をみると高齢者世帯、障害者世帯、傷病者世帯およびその他の世帯すべてにおいて、単身世帯が2人以上の世帯を大幅に上回っている状況です。

図表2-16 被保護世帯数・人員（各年度の3月末報告）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
世帯数	1,278	1,285	1,302	1,318	1,329	1,341
人員	1,767	1,744	1,726	1,713	1,716	1,713

出典：むつ市生活福祉課集計

図表2-17 被保護世帯内訳（平成29年1月分）

	高齢世帯	障害者世帯	傷病者世帯	その他の世帯
単身世帯	682	151	131	120
2人以上の世帯	67	25	42	72

出典：むつ市生活福祉課集計

(3) 生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者自立相談支援事業における新規相談件数は年々増加傾向にあり、平成29年度は31件となっています。

図表2-18 生活困窮者自立相談支援事業 新規相談件数

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
新規相談件数(件)	15	29	31

出典：むつ市生活福祉課集計

(4) 就学援助

平成24年から平成29年における要保護者および準要保護児童生徒就学援助費(ひとり親・低所得世帯等への援助)の状況は、小学生は300人前後、中学生は200人前後で推移しています。

図表2-19 要保護者及び準要保護児童生徒就学援助費
(ひとり親・低所得世帯等への援助)

【小学生】

	実質額(円)	人数(人)
平成24年	22,749,235	302
平成25年	20,482,070	285
平成26年	22,838,778	291
平成27年	24,288,555	313
平成28年	20,786,623	278
平成29年	25,043,560	303

【中学生】

	実質額(円)	人数(人)
平成24年	21,749,235	198
平成25年	25,766,224	225
平成26年	21,957,556	191
平成27年	25,452,875	216
平成28年	23,342,687	201
平成29年	25,617,119	208

出典：むつ市教育委員会集計